



23 川之邊一朝

《秋草流水蒔絵螺鈿棚》

一基

明治二十八年（二八九五）

木製漆塗、蒔絵

三六・二×八〇・七×六一・六

妙技二等賞

全体を黒地とした棚で、まばらに梨子地粉を蒔いて、黒一色のなかに変化を見せている。厨子扉や棚板には流水を研出蒔絵の技法で表し、厨子扉には萩とすすき、下段の引戸に撫子の花を置き、その中へ螺鈿で「かたへすすき」の文字を散らしている。厨子上の棚板に「の」、中段鏡板に「かよひ」左脇板は「風や」、右脇板に「ふくらん」の文字が透かし彫りで配されており、歌意を表している。透かし文字の部分にはすべて銀覆輪が被せられている。

本作の伝来には作者や宮内省に納められた経緯は伝えられていないが、『第四回内国勸業博覧会審査報告』所載の「蒔絵夏秋草書棚」記載の意匠、技法に一致していること、優れた蒔絵技法などから、明治二十八年の第四回内国勸業博覧会出品作の可能性が高い。審査報告によれば、意匠の考案は岸光景で、『古今和歌集』より凡河内躬恒「夏と秋とゆきかふそらのかよひちはかたへすすき風や吹くらむ」の歌意を表している。出品者は小池有終、蒔絵は川之邊一朝である。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

内国勸業博覧会 ― 明治美術の幕開け

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 57

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十四年四月二十一日発行

© 2012, The Museum of the Imperial Collections